



NEWS LETTER

自分の持つ術(すべ)を 全部使って伝えるかって？【前編】

1.子育てのモヤモヤしていた霧が晴れた！

私は6歳の息子と0歳の娘を持つ母です。
息子に何か習い事をさせたいと考えていましたが、
情報が溢れていて、何を軸にして決めればいいのか
自分では整理ができなくなっていました。



そんな折、子供が保育園からセルラス講演会の
チラシを持ち帰りました。

「子供の将来にはどんな人材が求められているのか」
という言葉に「これだ！」と思い、
期待いっぱい、講演会に参加しました。

鈴木理事長の講演は
私の子育てに対するモヤモヤの霧を
すっと晴れさせてくれました。
その中でも特にこの言葉に共感しました。



NPO法人多言語広場CELULAS
理事長：鈴木隆志

『言葉と向き合うのではなく人と向き合う』
『外国語教育という考えを外す』
『家族が子供のやっていることを受け取っているか否か』
『家を建てる時のように人としての土台作りが大切』



2. 子供の人生 走り抜くのは子供自身

そして講演を聞きながら、日頃の子育てをふり返りました。

それはダメダメ!

そっちはいいから
こっちをやりなさい



自分の勝手な想いで『失敗』という『成長のチャンス』を
子供から奪っている自分に気づきました。



子供の人生をマラソンに例えるなら、走り抜くのは子供自身。
親は決して代わりに走ってはあげられない。
でも人生を走り抜くための体力と気力・考える力の
ベースを養う環境を小さいうちから与えてあげることは、
親である私にこそできることだと感じました。

じゃあ一体どうやって？何をすれば？？

ということで、その答えを探しに
オープンセルラスに参加してみることにしました。



3.相手に伝えたい！が先だった…

実際参加をしてみると、シーンをイメージするためのロールプレイにとっても戸惑いました。

「これで自主性や多言語なんて身に付くのかなぁ…」
と思い、楽しいとも感じられませんでした。
一方息子は…



楽しかった！また行ってみたい！

と言ったんです。

でも私自身はモヤモヤして二の足を踏みました。

今度は思い切って、平日の午前中に開催された大人の会に、
自分自身のために参加してみました。

衝撃だったのは多言語自己紹介。

ジェスチャーなど、とにかく自分の持つ術を
全て使い相手に伝える。

自分も相手の言っていることを一生懸命聞こうとする。

久しぶりに必死になりました。



それまで私は英単語を丸暗記しないと
英語は話せないものと思い、頑張ってはみるものの、
結局頭が拒絶反応を起こして挫折する悪循環でした。
でも…



『相手に伝えたい』→『多言語を話したい!』

に考えがシフトすると、気持ちも180度変化したのです。



《後編に続く》

そしてついに
セルラスに入会！
子どもたちと自分に
大きな変化が！
お楽しみに！